

目次

【2018年 聖書講筵レジュメ（配付資料等）】

2018年

2018年3月 「人生は神讚美！」（キリスト道講演会）

2018年3月31日（奈良）

2018年7月 京都キリスト召団 夏季福音特別集会のご案内

2018年7月8日（京都）

2018年8月 夏季福音特別集会（京都）講筵

2018年8月24～25日（京都）



キリスト道講演会レジュメ

2018年3月 「人生は神讚美！」

2018年3月31日（奈良）

《講師の言葉》

自然界の万物は、創造主なる神を讃えています。人間だけが神讚美を忘れてしまったようです。旧約聖書の「詩篇」は、神への感謝と讚美に溢れています。旧約時代の人たちが、すべての面で満ち足りて「幸せ一杯」だったから「神讚美」ができたわけではありません。「空の鳥を見よ、野の花を見よ」と諭されたキリストは、どんな境遇の中においても神に信頼して、感謝と讚美の人生を送るようにと、私たちを導き、護って下さいます。ただ一度限りのこの世での人生が「神讚美の人生」でありたいと願っています。

旧約聖書「詩篇」

第19篇

- 1 もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手の業^{わざ}を示す。
- 2 この日は言葉をかの日に伝え、この夜は知識をかの夜に告げる。
- 3 話すことなく、語ることなく、その声も聞えないのに、
- 4 その響きは全地にあまねく、その言葉は世界の果てにまで及ぶ。神は日のために幕屋を天に設けられた。
- 5 日は花婿がその祝いの部屋から出てくるように、また勇士が競い走るように、その道を喜び走る。
- 6 それは天の果てから昇って、天の果てにまで、めぐって行く。その暖まりを被^{おき}らないものはない。
- 7 主の掟^{おきて}は完全であって、魂を生き返らせ、主の証しは確かであって、無学な者を賢くする。
- 8 主の論^{ことば}は正しくて、心を喜ばせ、主の戒めは混じりなくて、眼^{まなこ}を明らかにする。
- 9 主を畏れる道は清らかで、とこしえに絶えることがなく、主の裁きは真実であって、ことごとく正しい。
- 10 これらは金よりも、多くの純金よりも慕わしく、また蜜よりも、蜂の巣のしたたりよりも甘い。
- 11 あなたの僕は、これらによって戒めを受ける。これらを守れば、大いなる報いがある。



12 誰が自分の過ちを知ることができましようか。どうか、わたしを隠れた^{とが}咎から解き放ってください。

13 また、あなたの僕を引きとめて、故意の罪を犯させず、これに支配されることのないようにしてください。そうすれば、わたしは過ちの無い者となつて、大いなる咎を免れることができるでしょう。

14 わが岩、わが贖い主なる主よ、どうか、わたしの口の言葉と、心の思いがあなたの前に喜ばれますように。

第23篇

1 主はわたしの牧者であつて、わたしには乏しいことがない。

2 主はわたしを緑の牧場に臥させ、憩いの水際^{みぎわ}に伴われる。

3 主はわたしの魂を生き返らせ、御名のためにわたしを正しい道に導かれる。

4 たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、禍^{わざわい}を恐れません。あなたがわたしと共におられるからです。あなたの鞭^{むち}と、あなたの杖は、わたしを慰めます。

5 あなたはわたしの敵の前で、わたしの前に宴を設け、わたしの首^{くちうべ}に油を注がれる。わたしの杯は溢れます。

6 わたしの生きている限りは必ず恵みと慈しみ^{いつく}とが伴うでしょう。わたしはとこしえに主の宮に住むでしょう。

第25篇

1 主よ、わが魂はあなたを仰ぎ望みます。

2 わが神よ、わたしはあなたに信頼します。

どうか、わたしを辱^{はづかし}めず、わたしの敵を勝ち誇らせないでください。

3 すべてあなたを待ち望む者を辱めず、みだりに信義に背く者を辱めてください。

4 主よ、あなたの大路をわたしに知らせ、あなたの道をわたしに教えてください。

5 あなたのまことをもって、わたしを導き、わたしを教えてください。あなたはわが救いの神です。わたしは、ひねもす、あなたを待ち望みます。

6 主よ、あなたの憐れみと、慈しみとを思い出してください。これは古^{いにしえ}から絶えることがなかったのです。

7 わたしの若き時の罪と咎とを思い出さないでください。主よ、あなたの恵みのゆえに、あなたの慈しみにしたがって、わたしを思い出してください。

8 主は恵み深く、かつ正しくいらせられる。それゆえ、主は道を罪びとに教え、へりくだる者を公義に導き、へりくだる者にその道を教ええられる。

10 主のすべての道はその契約と証しとを守る者には、慈しみであり、まこと



である。

11 主よ、御名のために、わたしの罪をお許してください。わたしの罪は大きいのです。

12 主を畏れる人は誰か。主はその選ぶべき道をその人に教えられる。

13 彼はみずから幸いに住まい、その裔は地を継ぐであろう。

14 主の親しみは主を畏れる者のためにあり、主はその契約を彼らに知らせられる。

15 わたしの目は常に主に向っている。主はわたしの足を網から取り出されるからである。

16 わたしを顧み、わたしを憐れんでください。わたしは独りわびしく苦しんでいるのです。

17 わたしの心の悩みを緩め、わたしを苦しみから引き出してください。

18 わたしの苦しみ悩みを顧み、わたしのすべての罪をお許してください。

19 わたしの敵がいかに多く、かつ激しい憎しみをもって、わたしを憎んでいるかをご覧ください。

20 わたしの魂を守り、わたしをお助けください。わたしを辱めないでください。

わたしはあなたに寄り頼んでいます。

21 どうか、誠実と潔白とが、わたしを守ってくれるように。わたしはあなたを待ち望んでいます。

22 神よ、イスラエルを贖い、すべての悩みから救い出してください。

第27篇

1 主はわたしの光、わたしの救だ、わたしは誰を恐れよう。主はわたしの命の砦だ。わたしは誰をおじ恐れよう。

2 わたしの仇、わたしの敵である悪を行う者どもが、襲って来て、わたしをそしり、わたしを攻めるとき、彼らは躓き倒れるであろう。

3 たとい軍勢が陣営を張って、わたしを攻めても、わたしの心は恐れない。たとい戦が起こってわたしを攻めても、なおわたしはみずから頼むところがある。

4 わたしは一つの事を主に願った、わたしはそれを求める。わたしの生きるかぎり、主の家に住んで、主の麗しきを見、その宮で尋ね極めることを。

5 それは主が悩みの目に、その仮屋のうちにわたしを潜ませ、その幕屋の奥にわたしを隠し、岩の上にわたしを高く置かれるからである。

6 今わたしの首は、わたしをめぐる敵の上に高くあげられる。それゆえ、わたしは主の幕屋で喜びの声をあげて、犠牲を捧げ、歌って、主を褒め称える。



第32篇

7 主よ、わたしが声を挙げて呼ばわるとき、聞いて、わたしを憐れみ、わたしに答えてください。

8 あなたは仰せられました。「わが顔をたずね求めよ」と。あなたに向つて、わたしの心は言います、「主よ、わたしは御顔をたずね求めます」と。

9 御顔をわたしに隠さないでください。怒ってあなたの僕を退けないでください。あなたはわたしの助けです。わが救いの神よ、わたしを追い出し、わたしを棄てないでください。

10 たとい父母がわたしを棄てても、主がわたしを迎えられるでしょう。

11 主よ、あなたの道をわたしに教え、わたしの仇のゆえに、わたしを平らかな道に導いてください。

12 わたしの仇の望むがままに、わたしを引き渡さないでください。偽りの証しをする者がわたしに逆らつて起こり、暴言を吐くからです。

13 わたしは信じます。生ける者の地でわたしは主の恵みを見ることを。主を待ち望め、強く、かつ雄々しくあれ。主を待ち望め。

1 その咎^{とが}が許され、その罪^{おと}が覆い消される者は幸いである。

2 主によつて不義を負わされず、その霊に偽りのない人は幸いである。

3 わたしが自分の罪を言い現さなかった時は、ひねもす苦しみうめいたので、わたしの骨はふるび衰えた。

4 あなたの御手が昼も夜も、わたしの上に重かったからである。わたしの力は、夏の日照りによつて枯れるように、枯れ果てた。

5 わたしは自分の罪をあなたに知らせ、自分の不義を隠さなかった。わたしは言った、「わたしの咎^{とが}を主に告白しよう」と。その時あなたはわたしの犯した罪を許された。

6 このゆえに、すべて神を敬う者はあなたに祈る。大水の押し寄せる悩みの時にも、その身に及ぶことはない。

7 あなたはわたしの隠れ場であつて、わたしを守つて悩みを免れさせ、救いをもつてわたしを囲まれる。

8 わたしはあなたを教え、あなたの行くべき道を示し、わたしの目をあなたに留めて、さとす。

9 あなたは悟りの無い馬のようであつてはならない。また驟馬^{らば}のようであつてはならない。彼らは轡^{くつわ}、手綱^{たずな}をもつて押さえられなければ、あなたに従わない。

10 悪しき者は悲しが多い。しかし、主に信頼する者は慈しきで囲まれる。



11 正しき者よ、主によって喜び樂しめ、すべて心の直き者よ、喜びの声を高くあげよ。

第33篇

1 正しき者よ、主によって喜べ、讃美は直き者にふさわしい。

2 琴をもって主を讃美せよ、十弦の立琴をもって主を褒め称えよ。

3 新しい歌を主に向って歌い、喜びの声を挙げて巧みに琴をかきならせ。

4 主の御言葉は直く、その全ての御業は真実だからである。

5 主は正義と公平とを愛される。地は主の慈しみで満ちている。

6 もろもろの天は主の御言葉によって造られ、天の万軍は主の口の息によって造られた。

7 主は海の水を水がめの中に集めるように集め、深い淵を倉におさめられた。

8 全地は主を畏れ、世に住む全ての者は主を畏れかしこめ。

9 主が仰せられると、そのようになり、命じられると、堅く立ったからである。

10 主はもろもろの国のはかりごとを空しくし、もろもろの民の企てをくじかれる。

11 主のはかりごととはとこしえに立ち、その御意の思いは世々に立つ。

12 主をおのが神とする国は幸いである。主がその嗣業として選ばれた民は幸いである。

13 主は天から見下ろされ、すべての人の子らを見、

14 そのおられる所から地に住む全ての人を眺められる。

15 主はすべて彼らの心を造り、その全ての業に心を留められる。

16 王はその軍勢の多きによって救いを得ない。勇士はその力の大きいなるによって助けを得ない。

17 馬は勝利に頼みとならない。その大いなる力も人を助けることはできない。

18 見よ、主の目は主を畏れる者の上に在り、その慈しみを望む者の上に在る。

19 これは主が彼らの魂を死から救い、飢饉の時にも生きながらえさせるためである。

20 われらの魂は主を待ち望む。主はわれらの助け、われらの盾である。

われらは主の聖なる御名に信賴するが故に、われらの心は主にあつて喜ぶ。

21 主よ、われらが待ち望むように、あなたの慈しみをわれらの上に垂れてください。

第34篇

1 わたしは常に主を褒めまつる。その讃美はわたしの口に絶えない。

2 わが魂は主によって誇る。苦しむ者はこれを聞いて喜ぶであろう。



3 わたしと共に主をあがめよ、われらは共に御名を褒め称えよう。
4 わたしが主に求めたとき、主はわたしに答え、すべての恐れからわたしを助け出された。

5 主を仰ぎ見て、光を得よ、そうすれば、あなたがたは、恥じて顔を赤くすることはない。

6 この苦しむ者が呼ばわった時、主は聞いて、全ての悩みから救い出された。

7 主の使いは主を畏れる者のまわりに陣を敷いて彼らを助けられる。

8 主の恵みの深きことを味わい知れ、主に寄り頼む人は幸いである。

9 主の聖徒よ、主を畏れよ、主を畏れる者には乏しいことがないからである。

10 若き獅子は乏しくなって飢えることがある。しかし主を求める者は良き物に欠けることはない。

11 子らよ、来てわたしに聞け、わたしは主の恐るべきことをあなたがたに教えよう。

12 幸いを見ようとして、いのちを慕い、長らえることを好む人は誰か。

13 あなたの舌を押さえて悪を言わず、あなたの唇を押さえて偽りを言わずな。

14 悪を離れて善を行い、和らぎを求めて、これを務めよ。

15 主の目は正しい人を顧み、その耳は彼らの叫びに傾く。

16 主の御顔は悪を行う者に向い、その記憶を地から断ち滅ぼされる。

17 正しい者が助けを叫び求める時、主は聞いて、彼らをその全ての悩みから助け出される。

18 主は心の碎けた者に近く、魂の悔いぐずおれた者を救われる。

19 正しい者には災いが多い。しかし、主はすべてその中から彼を助け出される。

20 主は彼の骨をことごとく守られる。その一つだに折られることはない。

21 悪は悪しき者を殺す。正しい者を憎む者は罪に定められる。

22 主はその僕らの命を贖われる。主に寄り頼む者は一人だに罪に定められることはない。

第36篇（5節以下）

5 主よ、あなたの慈しみは天にまで及び、あなたの真まことは雲にまで及ぶ。

6 あなたの義は神の山のごとく、あなたの裁きは大きな淵のようだ。主よ、あなたは人と獣とを救われる。

7 神よ、あなたの慈しみはいかに尊いことでしょう。人の子らはあなたの翼の蔭に避け所を得、

8 あなたの家の豊かなのによって飽き足りる。あなたはその楽しみの川の水



を彼らに飲ませられる。

9 命の泉はあなたのもとにあり、われらはあなたの光によって光を見る。

10 どうか、あなたを知る者に絶えず慈しみを施し、心の直き者に絶えず救いを施してください。

11 高ぶる者の足がわたしを踏み、悪しき者の手がわたしを追い出すことを許さないでください。

12 悪を行う者はそこに倒れ、彼らは打ち伏せられて、起き上がることはできない。

第37篇

1 悪をなす者のゆえに、心を悩ますな。不義を行う者のゆえに妬^{ねた}みを起こすな。

2 彼らはやがて草のように衰え、青菜のようにしおれるからである。

3 主に信頼して善を行え。そうすれば、あなたはこの国に住んで、安きを得る。

4 主によって喜びをなせ。主はあなたの心の願いを叶えられる。

5 あなたの道を主に委ねよ。主に信頼せよ、主はそれを成し遂げ、

6 あなたの義を光のように明らかにし、あなたの正しいことを真昼のように明らかにされる。

7 主の前にもだし、耐え忍びて主を待ち望め。おのが道を歩んで栄える者のゆえに、悪いはかりごとを遂げる人のゆえに、心を悩ますな。

8 怒りをやめ、憤りを捨てよ。心を悩ますな、これはただ悪を行うに至るのみだ。

9 悪を行う者は断ち滅ぼされ、主を待ち望む者は国を継ぐからである。

10 悪しき者はただしばらくで、失せ去る。あなたは彼の所をつぶさに尋ねても彼はいない。

11 しかし柔和な者は国を継ぎ、豊かな繁栄を楽しむことができる。

12 悪しき者は正しい者に向ってはかりごとをめぐらし、これに向って齒がみする。

13 しかし主は悪しき者を笑われる、彼の日が来るのを見られるからである。

14 悪しき者は剣を抜き、弓を張って、貧しい者と乏しい者とを倒し、直く歩む者を殺そうとする。

15 しかしその剣はおのが胸を刺し、その弓は折られる。

16 正しい人の持ち物の少ないのは、多くの悪しき者の豊かなのに勝^{かち}つ。

17 悪しき者の腕は折られるが、主は正しい者を助け支えられるからである。

18 主は全き者のもろもろの日を知られる。彼らの嗣業はとこしえに続く。

19 彼らは災いの時にも恥を被^{かぶ}らず、飢饉の日にも飽き足りる。



20 しかし、悪しき者は滅び、主の敵は牧場の栄えの枯れるように消え、煙のように消え失せる。

21 悪しき者は物を借りて返すことをしない。しかし、正しい人は寛大で、施し与える。

22 主に祝福された者は国を継ぎ、主にのろわれた者は断ち滅ぼされる。

23 人の歩みは主によって定められる。主はその行く道を喜ばれる。

24 たといその人が倒れても、全く打ち伏せられることはない、主がその手を助け支えられるからである。

25 わたしは、昔、年若かった時も、年老いた今も、正しい人が捨てられ、あるいはその子孫が食物を乞い歩くのを見たことがない。

26 正しい人は常に寛大で、物を貸し与え、その子孫は祝福を得る。

27 悪を避けて善を行え。そうすれば、あなたは永久に住むことができる。

28 主は公義を愛し、その聖徒を見捨てられないからである。

29 正しい者は永久に助け守られる。しかし、悪しき者の子孫は断ち滅ぼされる。

30 正しい者は国を継ぎ、永久にその中に住むことができる。正しい者の口は知恵を語り、その舌は公義を述べる。

31 その心には神の掟があり、その歩みは滑ることがない。

32 悪しき者は正しい人をうかがい、これを殺そうと計る。

33 主は正しい人を悪しき者の手にゆだねられない。

また裁かれる時、これを罪に定められることはない。

34 主を待ち望め、その道を守れ。そうすれば、主はあなたを上げて、国を継がせられる。

あなたは悪しき者の断ち滅ぼされるのを見るであろう。

35 わたしは悪しき者が勝ち誇って、レバノンの香柏のようにそびえたつのを見た。

36 しかし、わたしが通り過ぎると、見よ、彼は居なかった。わたしは彼を尋ねたけれども見つからなかった。

37 全き人に目を注ぎ、直き人を見よ。穏やかな人には子孫がある。

38 しかし罪を犯す者どもは共に滅ぼされ、悪しき者の子孫は断たれる。

39 正しい人の救いは主から出る。主は彼らの悩みの時の避け所である。

40 主は彼らを助け、彼らを解き放ち、彼らを悪しき者どもから解き放って救われる。彼らは主に寄り頼むからである。

第46篇

1 神は我らの避け所、また力である。悩める時のいと近き助けである。



第57篇

2 このゆえに、たとい地は変り、山は海の真中に移るとも、我らは恐れない。
3 たといその水は鳴りとどろき、泡立つとも、その騒ぎによつて山は震え動くとも、我らは恐れない。

4 一つの川がある。その流れは神の都を喜ばせ、いと高き者の聖なる住まいを喜ばせる。

5 神がその中に居られるので、都は揺るがない。神は朝早く、これを助けられる。

6 もろもろの民は騒ぎたち、もろもろの国は揺れ動く。神がその声を出されると地は溶ける。

7 万軍の主は我らと共に居られる、ヤコブの神は我らの避け所である。

8 来て、主の御業を見よ、主は驚くべき事を地に行われた。

9 主は地の果てまでも戦いを止めさせ、弓を折り、槍を断ち、戦車を火で焼かれる。

10 「静まつて、わたしこそ神であることを知れ。わたしはもろもろの国民のうちにあがめられ、全地にあがめられる」。

11 万軍の主は我らと共に居られる、ヤコブの神は我らの避け所である。

1 神よ、わたしを憐れんでください。わたしを憐れんでください。わたしの魂はあなたに寄り頼みます。滅びの嵐の過ぎ去るまではあなたの翼の蔭をわたしの避け所とします。

2 わたしは、いと高き神に呼ばわれます。わたしのために全てのことを成し遂げられる神に呼ばわれます。

3 神は天から助けを送つてわたしを救い、わたしを踏みつける者を辱められます。すなわち神はその慈しみと真^{まこと}とを送られるのです。

4 わたしは人の子らを貪り食らう獅子の中に横たわっています。彼らの齒は矛^{ほこ}、また矢、彼らの舌は鋭い剣です。

5 神よ、自らを天よりも高くし、御栄を全地の上に上げてください。

6 彼らはわたしの足を捕えようと網を設けました。わたしの魂はうなだれました。彼らはわたしの前に穴を掘りました。しかし彼らはみずからその中に陥^{おちい}つたのです。

7 神よ、わたしの心は定まりました。わたしは歌い、かつ褒め称えます。

8 わが魂よ、覚めよ。立琴よ、琴よ、覚めよ。わたしはしのめを呼び覚まします。

9 主よ、わたしは諸々の民の中であなたに感謝し、諸々の国の中であなたを



褒め称えます。

10 あなたの慈しみは大きく、天にまで及び、あなたの真は雲にまで及びます。

11 神よ、みずからを天よりも高くし、御栄を全地の上に上げてください。

第62篇

1 わが魂は黙してただ神を待つ。わが救いは神から来る。

2 神こそわが岩、わが救い、わが高き櫓である。わたしは甚く動かされることはない。

3 あなたがたは、いつまで人に押し迫るのか。あなたがたは皆、傾いた石垣のように、揺れ動くまがきのように人を倒そうとするのか。

4 彼らは人を尊い地位から落そうとのみ計り、偽りを喜び、その口では祝福し、心の内では呪うのである。

5 わが魂は黙してただ神を待つ。わが望みは神から来るからである。

6 神こそわが岩、わが救い、わが高き櫓である。わたしは動かされることはない。

7 わが救いとわが誉れとは神に在る。神はわが力の岩、わが避け所である。

8 民よ、いかなる時にも神に信頼せよ。その御前にあなたの心を注ぎ出せ。神は我らの避け所である。

9 低い人は空しく、高い人は偽りである。彼らを秤に置けば、彼らは息よりも軽い。

10 あなたがたは、虐げに頼ってはならない。かすめ奪うことに、空しい望みを置いてはならない。富の増し加わるとき、これに心をかけてはならない。

11 神はひとたび言われた、わたしは再びこれを聞いた、力は神に属することを。

12 主よ、慈しみもまた、あなたに属することを。あなたは人おのおのの業に従って報いられるからである。

第63篇

1 神よ、あなたはわたしの神、わたしは切にあなたを尋ね求め、わが魂はあなたを渴き望む。水無き、渴き衰えた地に在るように、わが肉体はあなたを慕いこがれる。

2 それでわたしは、あなたの力と栄えとを見ようと、聖所に在って目をあなたに注いだ。

3 あなたの慈しみは命にも勝るゆえ、わが唇はあなたを褒め称える。

4 わたしは生きながらえる間、あなたを褒め、手を挙げて、御名を呼びまつる。

5,6 わたしは床の上であなたを思い出し、夜の更けるままにあなたを深く思うとき、わたしの魂は髓と油とをもってもてなされるように飽き足り、わたし



の口は喜びの唇をもつてあなたを褒め称える。

7 あなたはわたしの助けとなられたゆえ、わたしはあなたの翼の陰で喜び歌う。

8 わたしの魂はあなたにすがりつき、あなたの右の手はわたしを支えられる。

9 しかし、わたしの魂を滅ぼそうと尋ね求める者は地の深き所に行き、

10 剣の力に渡され、山犬の餌食となる。

11 しかし、王は神に在って喜び、神によって誓う者は皆、誇ることができる。
偽りを言う者の口はふさがれるからである。

第84篇

1 万軍の主よ、あなたの住まいはいかに麗しいことでしょう。

2 わが魂は絶えいるばかりに主の大庭を慕い、わが心とわが身は生ける神に向って喜び歌います。

3 雀が棲みかを得、燕がその雛を入れる巢を得るように、万軍の主、わが王、わが神よ、あなたの祭壇の傍らにわが住まいを得させてください。

4 あなたの家に住み、常にあなたを褒め称える人は幸いです。

5 その力があなたに在り、その心がシオンの大路に在る人は幸いです。

6 彼らはバカの谷を通っても、そこを泉の在る所とします。また前の雨は池をもつてそこを覆います。

7 彼らは力から力に進み、シオンにおいて神々の神にまみえるでしょう。

8 万軍の神、主よ、わが祈りをお聞きください。ヤコブの神よ、耳を傾けてください。

9 神よ、われらの盾をみそなわし、あなたの油注がれた者の顔を顧みてください。

10 あなたの大庭に居る一日は、よそに居る千日にも勝るのです。

わたしは悪の天幕に居るよりは、むしろ、わが神の家の門守となることを願います。

11 主なる神は、日です、盾です。主は、恵みと誉れとを与え、直く歩む者に良い物を拒まれることはありません。

第91篇

1 いと高き者のもとに在る隠れ場に住む人、全能者の陰に宿る人は

2 主に言うであろう。「わが避け所、わが城、わが信頼し奉るわが神」と。

3 主は、あなたを狩人の罠と、恐ろしい疫病から助け出されるからである。

4 主は、その羽をもつて、あなたを覆われる。あなたは、その翼の下に避け所を得るであろう。その真は大盾、また小盾である。



5 あなたは夜の恐ろしい物をも、昼に飛んでくる矢をも恐れることはない。
6 また暗闇に歩き回る疫病をも、真昼に荒す滅びをも恐れることはない。
7 たとい千人はあなたの傍らに倒れ、万人はあなたの右に倒れても、その災
いはあなたに近づくことはない。

8 あなたは只、その目をもつて見、悪しき者の報いを見るだけである。
9 あなたは主を避け所とし、いと高き者を住まいとしたので、

10 災いはあなたに臨まず、悩みはあなたの天幕に近づくことはない。

11 これは主があなたのために天使たちに命じて、あなたの歩むすべての道で
あなたを守らせられるからである。

12 彼らはその手で、あなたを支え、石に足を打ちつけることのないようにする。
13 あなたは、獅子とマムシとを踏み、若い獅子と蛇とを足の下に踏みにじる
であろう。

14 彼はわたしを愛して離れないゆえに、わたしは彼を助けよう。彼はわが名
を知るゆえに、わたしは彼を守る。

15 彼がわたしを呼ぶとき、わたしは彼に答える。わたしは彼の悩みのときに、
共に居て、彼を救い、彼に光栄を与えよう。

16 わたしは長寿をもつて彼を満ち足らせ、わが救いを彼に示す。

第103篇(旧約の福音)

1 わが魂よ、主を褒めよ。わが内なるすべてのものよ、その聖なる御名を褒
めよ。

2 わが魂よ、主を褒めよ。そのすべての恵みを心に留めよ。

3 主は、あなたのすべての不義をゆるし、あなたのすべての病を癒し、

4 あなたの命を墓から贖い出だし、慈しみと憐れみとをあなたに被らせ、

5 あなたの生きながらえるかぎり、良き物をもつてあなたを飽き足らせられ
る。こうしてあなたは若返って、鷺のように新たになる。

6 主はすべて^{しいた}虐げられる者のために、正義と公正とを行われる。

7 主はおのれの道をモーセに知らせ、おのれの仕業^{しわざ}をイスラエルの人々に知
らせられた。

8 主は憐れみに富み、恵み深く、怒ること遅く、慈しみ豊かでいらせられる。

9 主は常に責めることをせず、また、永久に怒りを抱かれない。

10 主は我らの罪にしたがって我らをあしらわれず、我らの不義にしたがって
報いられない。

11 天が地よりも高いように、主が己を畏れる者に賜わる慈しみは大きい。

12 東が西から遠いように、主は我らの咎を我らから遠ざけられる。



13 父がその子供を憐れむように、主は己を畏れる者を憐れまれる。
14 主は我らの造られたさまを知り、我らの塵であることをお覚えていられるからである。

15 人はその齡よわいは草のごとく、その榮えは野の花にひとしい。

16 風がその上を過ぎると、失せて跡なく、その場所に聞いても、もはやそれを知らない。

17 しかし主の慈しみは、永久から永久まで、主を畏れる者の上に在り、その義は子らの子に及び、

18 その契約を守り、その命令を心に留めて行う者にまで及ぶ。

19 主はその玉座を天に堅く据えられ、そのまつりごとはすべての物を統べ治める。

20 主の使いたちよ、その御言葉の声を聞いて、これを行う勇士たちよ、主を褒めまつれ。

21 その全ての万軍よ、その御心を行う僕たちよ、主を褒めよ。

22 主が造られた全ての物よ、そのまつりごとの下に在るすべての所で、主を褒めよ。わが魂よ、主を褒めよ。

第121篇

1 わたしは山に向って目を上げる。わが助けは、どこから来るであるか。

2 わが助けは、天と地を造られた主から来る。

3 主はあなたの足の動かされるのを許されない。

あなたを守る者はまどろむことがない。

4 見よ、イスラエルを守る者はまどろむこともなく、眠ることもない。

5 主はあなたを守る者、主はあなたの右の手を覆う陰である。

6 昼は太陽があなたを撃つことなく、夜は月があなたを撃つことはない。

7 主はあなたを守って、すべての災いを免れさせ、またあなたの命を守られる。

8 主は今から永久に至るまで、あなたの出ると入るとを守られる。

第130篇

1 主よ、わたしは深い淵ふちからあなたに呼ばれる。

2 主よ、どうか、わが声を聞き、あなたの耳をわが願いの声に傾けてください。

3 主よ、あなたがもし、もろもろの不義に目を留められるならば、主よ、それが立つことができましょうか。

4 しかしあなたには、ゆるしが在るので、人に畏れかしこまれるでしょう。

5 わたしは主を待ち望みます。その御言葉によって、わたしは望みを抱きます。

6 わが魂は夜回りがあかつき暁を待つにまさり、夜回りが暁を待つにまさって主を待



第139篇

ち望みます。

7 イスラエルよ、主によって望みを抱け。主には、慈しみが在り、また豊かな贖いが在るからです。

8 主はイスラエルをそのもろもろの不義から贖われます。

1 主よ、あなたはわたしを探り、わたしを知りつくされました。

2 あなたはわが座るをも、立つをも知り、遠くからわが思いをわきまえられます。

3 あなたはわが歩むをも、伏すをも探り出し、もろもろの道を悉く知っておられます。

4 わたしの舌に一言もないのに、主よ、あなたは悉くそれを知られます。

5 あなたは後ろから、前からわたしを囲み、わたしの上に御手を置かれます。

6 このような知識はあまりに不思議で、わたしには思いも及びません。これは高く達することはできません。

7 わたしは何処へ行って、あなたの御霊を離れましょうか。わたしは何処へ行って、あなたの御前を逃れましょうか。

8 わたしが天に昇っても、あなたは其処に居られます。わたしが陰府に床を設けても、あなたは其処に居られます。

9 わたしが曙の翼をかって海の果てに住んでも、あなたの御手はその所でわたしを導き、

10 あなたの右の御手はわたしを支えられます。

11 「闇はわたしを覆い、わたしを囲む光は夜となれ」とわたしが言っても、

12 あなたには、闇も暗くはなく、夜も昼のように輝きます。あなたには、闇も光も異なることはありません。

13 あなたはわが内臓を造り、わが母の胎内でわたしを組み立てられました。

14 わたしはあなたを褒め称えます。あなたは畏るべく、くすしき方だからです。あなたの御業はくすしく、あなたは最もよくわたしを知っておられます。

15 わたしが隠れた所で造られ、地の深い所で綴り合わされたとき、わたしの骨はあなたに隠れることがなかった。

16 あなたの目は、まだ出来上らないわたしの体を見られた。わたしのために造られたわが齢の日の、まだ一日もなかったとき、その日は悉くあなたの書に記された。

17 神よ、あなたの諸々の御思いは、なんとわたしに尊いことでしょう。その全体はなんと広大なことでしょう。



18 わたしがこれを数えようとすれば、その数は砂よりも多い。わたしが目覚めるとき、わたしはなお、あなたと共に居ます。

（中略）

23 神よ、どうか、わたしを探って、わが心を知り、わたしを試みて、わがもろもろの思いを知ってください。

24 わたしに悪しき路のあるかないかを見て、わたしを永久の道に導いてください。

第146篇

1 主を褒め称えよ。わが魂よ、主を褒め称えよ。

2 わたしは生けるかぎり主を褒め称え、永らえる間は、わが神を褒め歌おう。

3 諸々の君に信頼してはならない。人の子に信頼してはならない。彼らには助けがない。

4 その息が出て行けば彼は土に帰る。その日には彼の諸々の計画は滅びる。

5 ヤコブの神をおのが助けとし、その望みをおのが神、主に置く人は幸いである。

6 主は、天と地と、海と、その中のあらゆるものを造り、永久に真実を守り、7 虐げられる者のために裁きを行い、飢えた者に食物を与えられる。主は捕われ人を解き放たれる。

8 主は盲人の目を開かれる。主は屈む^{かが}者を立たせられる。主は正しい者を愛される。

9 主は寄留の他国人を守り、孤児と、やもめとを支えられる。しかし、悪しき者の道を滅びに至らせられる。

10 主は永久に統べ^す治められる。シオンよ、あなたの神はよろず代まで統べ治められる。主を褒め讃えよ。

第148篇

1 主を褒めた讃えよ。諸々の天から主を褒め称えよ。諸々の高き所で主を褒め称えよ。

2 その天使よ、皆、主を褒め称えよ。その万軍よ、皆、主を褒め称えよ。

3 日よ、月よ、主を褒め称えよ。輝く星よ、皆、主を褒め称えよ。

4 いと高き天よ、天の上に在る水よ、主を褒め称えよ。

5 これらのものに主の御名を褒め称えさせよ、これらは主が命じられると造られたからである。

6 主はこれらを永久に堅く定め、越えることのできないその境を定められた。

7 海の獣よ、すべての淵^{ふち}よ、地から主を褒め称えよ。



8 火よ、あられよ、雪よ、霜よ、御言葉を行う嵐よ、
9 諸々の山、すべての丘、実を結ぶ木、すべての香柏よ、
10 野の獣、すべての家畜、^{つかさ}這うもの、翼ある鳥よ、地の王たち、すべての民、
君たち、地のすべての^{つかさ}司よ、
11 若い男子、若い女子、老いた人と若い者よ、
12 彼らをして主の御名を褒め称えさせよ。その御名は高く、たぐいなく、その
栄光は地と天の上に在るからである。
14 主はその民のために一つの角^{つゝ}をあげられた。これはすべての聖徒の褒め称
えるもの、主に近いイスラエルの人々の褒め称えるものである。主を褒め称
えよ。

第150篇

1 主を褒め称えよ。その聖所で神を褒め称えよ。その力の現れる大空で主を
褒め称えよ。
2 その大能の働きのゆえに主を褒め称えよ。そのすぐれて大いなることのゆ
えに主を褒め称えよ。
3 ラッパの声をもって主を褒め称えよ。立琴と琴とをもって主を褒め称えよ。
4 鼓^{つづみ}と踊りとをもって主を褒め称えよ。緒琴と笛とをもって主を褒め称えよ。
5 音の高いシンバルをもって主を褒め称えよ。鳴り響くシンバルをもって主
を褒め称えよ。
6 息のあるすべてのものに主を褒め称えさせよ。主を褒め称えよ。

旧約聖書イザヤ書44章21〜23節

21 ヤコブよ、イスラエルよ、これらの事を心にとめよ。あなたはわが僕だから。
わたしはあなたを造った、あなたはわが僕だ。イスラエルよ、わたしはあな
たを忘れない。
22 わたしはあなたの咎を雲のように吹き払い、あなたの罪を霧のように消し
た。わたしに立ち返れ、わたしはあなたを贖ったから。
23 天よ、歌え、主がこの事をなされたから、地の深き所よ、呼ばわれ。もろ
もろの山よ、林およびその中のもろもろの木よ、声を放って歌え。主はヤコ
ブを贖い、イスラエルのうちに栄光を顕わされたから。



ご案内

2018年7月 京都キリスト召団 夏季福音特別集会のご案内

2018年7月8日 (京都)

Ⅰ 特別集会を開催する主体と趣旨

昨年の夏季福音特別集会の「ご案内」においても述べたことですが、小池辰雄先生が天に召された後は、各キリスト召団は、それぞれが、独立独歩、それぞれに賜わった使命を自覚して、それぞれの道を歩んでまいりました。最早、「全日本キリスト召団」といった、各キリスト召団を統合する組織体は名実ともに存在いたしません。ただし、共通点は、各召団のリーダーの立場に在る者は、いずれも、小池先生に学び、その薫陶を受け、小池福音の神髄を継承し、後代に伝えて行くべき使命を自覚している事でした。

それゆえ、このような共通の自覚のもとで、各キリスト召団が助け合い、時には合同の集会やセミナーを開催して協力することは、喜ばしいことと考えています。

今年の夏の特別集会も、京都キリスト召団の「夏の合宿の集会」という性格のものでありますが、他の召団の会員の方々の参加(友情参加)は、各召団の交流の機会としても貴重で、喜ばしいことであり、歓迎いたします。

Ⅱ 特別集会の「主題」(対象)と「宿題」

主題…「十字架・聖霊」の貫徹——キリスト道の神髄——

その内容を、次の三つのレベル(局面)において明確化したいと考えています。

(Ⅰ) 個人のレベルで…十字架と聖霊による「新生」の必要性(各人が、「信仰面で他人に依存するのではなく、真に自立した「キリスト直結」の生き方をすること)

(Ⅱ) 「神の宮・聖霊の宮」としての「集会」(エクレシヤ)の形成(個人主義的に、自分の信仰の内に閉じこもるのではなく、積極的に集会に参加し、寄与すること)

(Ⅲ) 福音宣教の必要性・責務

宿題

(Ⅰ) 上の(Ⅰ)(Ⅱ)(Ⅲ)に関わる聖書(主として新約聖書)の箇所を拾いあげて下さい。

(2) あなたは、(Ⅰ)(Ⅱ)(Ⅲ)を御自身の生活において、どのように受け取り、ないしは、どのように関わっておられますか？



講筵レジュメ

2018年8月 夏季福音特別集会（京都）講筵

2018年8月24～25日（京都）

Ⅰ 序 全回を貫き前提となるもの

1、終末の迫りの中で！

イエスの福音宣教の第一声は、

「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ。」

であった（マルコ1・15）。この前提を外しては、イエスの言・行の重さ、深さを理解することは出来ない。

2、

(1) 「神は霊なれば、拝する者も霊と真^{まこと}とをもて拝すべきなり」（ヨハネ4・24）(2) 「活かすものは霊なり、肉は益する所なし、わが汝らに語りし言は、霊なり、生命^{いのち}なり」（ヨハネ6・63）(3) 「誰でも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない。⁵……神の国に入ることとはできない。⁶肉から生れた者は肉であり、霊から生れた者は霊である」（ヨハネ3・3～6）

関連箇所…ヨハネ3・31～36、ピリピ3・20～21、コロサイ3・1～4

Ⅱ 第1回集会（8月24日夜）

あなたは、私（イエス・キリスト）を誰と言うか？

あなたにとって、私は如何なる存在か、どこに接点があるか？

「我もし汝を洗わずば、汝われと関係^{かかわり}なし」（ヨハネ13・8）「我は生命^{いのち}のパンなり。我に来る者は飢えず、我を信する者は、何時^{いつ}までも渴^{かわ}くこと無し」（ヨハネ6・35）「50天より降^{くだ}るパンは、食^{くら}う者をして死ぬる事なからしむるなり。51我は天より降りし活けるパンなり。人このパンを食わば永遠^{とこしえ}に活くべし。我が与^{あた}るパンは我が肉なり、世の生命のために之を与えん」（ヨハネ6・50～51）

「我は葡萄樹、汝らは枝なり。汝ら、我に居り、我、汝らに居らば、多くの実を結ぶべし。」（ヨハネ15・5）

「汝ら我を選びしに非ず、我、汝らを選べり。」（ヨハネ15・16）



「父の我を愛し給いしごとく、我も汝らを愛したり。わが愛に居れ。」（ヨハネ15・9）

「³ヤコブの家よ、イスラエルの家の残ったすべての者よ、生れ出た時から、わたしに負われ、胎を出した時から、わたしに持ち運ばれた者よ、わたしに聞け。⁴わたしは、あなたがたの年老いるまで変らず、白髪となるまで、あなたがたを持ち運ぶ。わたしは造ったゆえ、必ず負い、持ち運び、かつ救う。」（イザヤ46・3～4）

「⁴まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみを担った。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神に叩かれ、苦しめられたのだと。

⁵しかし彼は、われわれの咎のために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲らしめを受けて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれは癒されたのだ。

⁶われわれは皆、羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主は、われわれ全ての者の不義を、彼の上に置かれた。

⁷彼は虐げられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。屠り場に引かれて行く子羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。

⁸彼は暴虐な裁きによって取り去られた。その代の人のうち、だれが思ったであろうか、彼は我が民の咎のために打たれて、生けるものの地から断たれたのだと。」（イザヤ53・4～8）

「¹⁸十字架の言は、亡ぶる者には愚かなれど、救わるる我らには、神の力なり。

……²⁵神の愚は、人よりも智く、神の弱きは、人よりも強ければなり。」（コリント前1・18、25）

「²⁰我、キリストと偕に十字架につけられたり。最早われ生くるに非ず、キリスト我が内に在りて生くるなり。今、我、肉体に在りて生くるは、我を愛して我がために己が身を棄て給いし神の子を信ずるに由りて生くるなり。

²¹我は神の恩恵を空しくせず、もし義とせらるること律法に由らば、キリストの死に給えるは徒然なり。」（ガラテヤ2・20～21）

「¹あなたがたは、キリストとともに甦らされたのだから、上に在るものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右に座しておられるのである。²あなたがたは、上に在るものを思うべきであって、地上のものに心惹かれてはならない。³あなたがたは既に死んだ者であって、あなたがたの生命は、キリストと共に神のうちに隠されているのである。⁴わたしたちの生命なるキ



リストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう。」(コロサイ3:1～4)

Ⅲ 第2回集会(8月25日 午前)

試練・患難の中での戦い

種蒔きの譬え話(マタイ13:1～23、マルコ4:1～20、ルカ8:4～15)

金持ちとラザロの譬え話(ルカ16:19～31)

イエスに従う者の心構え「己を棄て、日々、己が十字架を負いて、我に従え！」(ルカ9:23～27、マタイ16:24～28、マルコ8:34～9:1)

患難と忍耐(ローマ書5:1～11、8:18～39、コリント前書10:13、ヘブル書10:32～39、ヤコブ書1:2～4、1:12、5:7～11、ペテロ前書2:19～25、3:8～18、4:12～14、5:7～11、ヨハネ黙示録7:9～17、21:1～7)

Ⅳ 第3回集会(8月25日 夜)(祈禱会)

「祈り」とは、十字架・聖霊の主キリストの中へ「信入・帰入・祈入」すること。その土台は、「イエスの架かり給いし十字架」である。そこで(その所で)「旧き我」「肉なる我」は葬り去られていることを信受・体受するにあり。まさに、ガラテヤ書2章20節～21節を、自らの告白とすることである。

地上でのイエスの霊願..

「此の火すでに燃えたらんには！」(ルカ12:49～53)

「求めよ、さらば与えられん」の「求め」の内容は、「聖霊」である(ルカ11:9～13)

地上でのイエスは、「祈り」の人であつた。

「朝まだき暗き程に、イエス起き出でて、寂しき処にゆき、其処にて祈りいたもう。」(マルコ1:35)

「イエス或る処にて祈り居給いしが、その終りしとき、弟子の一人言う「主よ、祈ることを我らに教え給え。」(ルカ11:1)

祈りの秘訣

①「気落ち(落胆)せずして常に祈るべきこと。」(ルカ18:1～8)

② 砕けの心(ルカ18:9～14)

③「まず、神の国と神の義を！」(マタイ6:33、ルカ12:31～32)

④「汝ら我に居り、わが言汝らに居らば、何にても望みに随いて求めよ、さらば成らん。」(ヨハネ15:7)

⑤「凡て祈りて願う事は、すでに得たりと信ぜよ、さらば得べし。」(マルコ



11・24)

⑥「¹⁴我らが神に向いて確信する所は是なり。即ち御意^{みこころ}にかなふ事を求めば、必ず聴き給う。¹⁵かく求むるところ、何事にても聴き給うと知れば、求めし願いを得たる事をも知るなり。」(ヨハネ15・14～15)

V 第4回集会(8月26日 午前)

伝道(証し)・宣教の使命と実践

人の前でキリストを告白(証し)することのためらつてはならない(ルカ12・8～9)。我々は、同胞に、また、次世代を担う人たち(若者)にキリストを、その福音を、伝達する使命を帯びている。

ローマ書10章でパウロは、同胞であるユダヤ民族の救いのための切実な思い・願いを吐露している。

「¹わたしの心の願い、彼らのために神に捧げる祈りは、彼らが救われることである。²わたしは、彼らが神に対して熱心であることは証しするが、その熱心は深い知識によるものではない。³なぜなら、彼らは神の義を知らないで、自分の義を立てようと努め、神の義に従わなかったからである。⁴キリストは、すべて信じる者に義を得させるために、律法の終りとなられたのである。」(ロマ10・1～4)

この箇所を日本社会に適用するならば、次のように言うことが出来るだろう。

「彼ら(日本人・日本民族)は、宗教に対して熱心であるが、宗教を超えた『真の実在者(真の神)』と『その心(本願)』を知らないで、それゆえに、己が宗教を立てようとし、それに執着している。キリストは『宗教』の終りとなられたのである」と。そして、パウロは、ほんとうの「救い」はキリストを信受することによつて成就すると宣言し、キリストによる救いと、宣教の必要性を訴えている

「¹¹聖書(旧約)は、『すべて彼(イエス)を信じる者は、失望に終ることがない』と言っている。¹²ユダヤ人とギリシヤ人との差別はない。同一の主が万民の主であつて、彼を呼び求めるすべての人を豊かに恵んで下さるからである。¹³なぜなら、『主の御名を呼び求める者は、すべて救われる』とあるからである。

¹⁴しかし、信じたことのない者を、どうして呼び求めることがあろうか。聞いたことのない者を、どうして信じることがあろうか。宣べ伝える者が居なくては、どうして聞くことがあろうか。¹⁵遣わされなくては、どうして宣べ伝えることがあろうか。」(ロマ10・11～15)

そして、



「信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。」（ロマ10・17）

と述べて、伝道（証し）・宣教の必要な事を告白している。

我々、キリストに救われた者は、「救われたこと」で佳しとせず、進んで「救われたこと」を人々に伝達し（告白し）、福音を身証する責任を担っている。そのためには、「恥をかく」ことを恐れてはならない。

パウロの告白・・

「¹⁶わたしは福音を恥としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリシヤ人にも、すべて信じる者に、救いを得させる神の力である。¹⁷神の義は、その福音の中に啓示され、信仰に始まり信仰に至らせる。これは、『信仰による義人は生きる』と書いてあるとおりである。」（ロマ1・16～17）

また、パウロは、

「福音を宣べ伝えないではおれない。福音のためなら、どんなことも厭^{いと}わない」と心情を吐露している（コリント第一9・16～23）。このパウロの叫びに共感し、実践していただきたい。

コリント後書5章14節以下においても、パウロは、以下のように熱く語る。

「¹⁴キリストの愛、われらに迫れり、……一人すべての人に代りて死にたれば、凡ての人すでに死にたるなり。¹⁵その凡ての人に代りて死に給いしは、生ける人の最早、己の為に生きず、己に代り死にて甦^{よみがえ}り給いし者のために生きん為なり。……¹⁷人もしキリストに在らば、新たに造られたる者なり。古きは既に過ぎ去り、視よ、新しくなりたり。¹⁸これらの事はみな神より出づ、神はキリストによりて我らを己と和^{やわら}がしめ、かつ和がしむる職^{つとめ}を我らに授け給えり。¹⁹即ち、神はキリストに在りて世を己と和がしめ、その罪を之に負わせず、かつ和がしむる言を我らに委ね給えり。」

²⁰されば、我等はキリストの使者たり。^{あとか} 恰も神の我等によりて汝らを勧め給うがごとし。我等キリストに代りて願う、なんじら神と和げ。²¹神は罪を知り給わざりし者を我らの代りに罪となし給えり、これ、我らが彼に在りて神の義となるを得んためなり。」（コリント後5・14～21）

コロサイ書においては、パウロとテモテからコロサイの信徒たちに対して、次のように勧め、また、願っている。

「²目をさまして、感謝のうちに祈り、ひたすら祈り続けなさい。³同時に、私たちのためにも、神が御言のために門を開いて下さって、私たちがキリストの奥義を語れるように、⁴また、わたしが語るべきことを、はっきりと語れるように、祈ってほしい。⁵今の時を生かして用い、外の人に対して賢く



行動しなさい。⁶ いつも、塩で味つけられた、やさしい言葉を使いなさい。そうすれば、ひとりびとりに対してどう答えるべきか、わかるであろう。」（コロサイ4：2～6）

また、弟子のテモテに宛てた手紙において、パウロは、

「⁴神は凡ての人の救われて、真理を悟るに至らんことを欲し給う。⁵それ神は唯一なり、また神と人との間の中保も唯一にして、人なるキリスト・イエスは是なり。⁶彼は己を与えて凡ての人の贖価となり給えり、時至りて証せらる。」（テモテ前2：4～6）

と述べている。また、

「汝、御言を宣べ伝えよ、^{おり}機を得るも機を得ざるも常に励め」（テモテ後4：2）と奨めている。

